

令和6年度 美術科 2年 年間指導計画・評価計画

<1> 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。(知識・技能)
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考・判断・表現)
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。(主体的に学習に取り組む態度)

<2> 第2学年及び第3学年の目標及び内容

1 目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。(知識・技能)
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考・判断・表現)
- (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

2 内容

「A表現」

(1) 発想や構想に関する資質・能力の育成 (思考・判断・表現)

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせてなどから主題を生み出し、調和にとれた美しさ等を考え、表現の構想を練ること。

(イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。

(ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者立場、社会との関わり、機能やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。

(2) 技能に関する資質・能力の育成 (技能)

ア 発想や構想したことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることが

できるよう指導する。

(ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

(イ) 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すこと。

「B鑑賞」

(1) 鑑賞に関する資質・能力の育成（思考・判断・表現）

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げること。

(イ) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げること。

イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 身近な環境の中に見られる造形的美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

(イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕（知識）

(1) A表現及びB鑑賞の指導を通して身に付ける事項

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

3 内容の取扱い

(1) 第2学年及び第3学年では、第1学年において身に付けた資質・能力を柔軟に活用して、表現及び鑑賞に関する資質・能力をより豊かに高めることを基本とし、第2学年と第3学年の発達の特徴を考慮して内容の選択や一題材に充てる時間数について十分検討すること。

(2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして対象の見方や感じ方を深めるなどの言語活動の充実を図ること。

(3) 「B鑑賞」のイの(イ)の指導に当たっては、日本の美術の概括的な変遷などを捉えることを通して、各時代における作品の特質、人々の感じ方や考え方、願いなどを感じ取ることができるように配慮すること。

< 3 > 評価の観点の趣旨

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。
思考・判断・表現	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

< 4 > 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。(80%以上)
	B	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	C	努力を要する状況である。(50%未満)

評定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。(90%以上)
	4	十分満足できる状況である。(80%以上)
	3	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	2	努力を要する状況である。(50%未満)
	1	一層努力を要する状況である。(20%未満)

< 5 > 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画作成配慮事項

- (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通し、その中で育む資質・農六の育成に向け、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。
- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導については相互に関連を図り、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにする。
- (3) [共通事項] は表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるように工夫する。
- (4) 「A表現」については、(1) のア及びイと、(2) は原則として関連付けて行い、(1) のア及びイそれぞれにおいて描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにする。その際、第2学年及び第3学年の各学年においては、(1) のア及びイそれぞれにおいて、描く活動とつくる活動のいずれかを選択して扱うことができることとし、2学年間を通して描く活動とつくる活動が調和的に行えるようにする。
- (5) 「B鑑賞」については、各学年とも、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図れるよう、適切かつ、十分な授業時数を確保する。
- (6) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。
- (7) 道徳科などとの関連を考慮しながら、特別の教科道徳の第2に示す内容について、美術科の特性に応じて適切な指導をする。

2 内容の取扱い配慮事項

- (1)〔共通事項〕の指導に当たっては、生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるよう、以下の内容について配慮する。
- ア 〔共通事項〕アの指導に当たっては、造形の要素などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにする。
- (ア) 色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉えること。
 - (イ) 材料の性質や質感を捉えること。
 - (ウ) 形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること。
 - (エ) 形や色彩などの組み合わせによる構成の美しさを捉えること。
 - (オ) 余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉えること。
- イ 〔共通事項〕イの指導に当たっては、全体のイメージや作風などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにする。
- (ア) 造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること。
 - (イ) 造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること。
- (2)「A表現」の指導に当たっては、主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにする。
- (3)「A表現」の指導に当たっては、生徒の学習経験や資質・能力、発達の特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択し創意工夫して表現できるように、次の事項を配慮する。
- ア 見る力や感じ取る力、考える力、描く力などを育成するため、スケッチの学習を効果的に取り入れるようにする。
- イ 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにする。
- ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画やイラストレーション、図などの多様な表現方法を活用できるようにする。
- エ 表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにする。
- (4) 各活動において、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。
- (5) 互いの個性を生かし合い協力して創造する喜びを味わわせるために、適切な機会を選び共同で行う創造活動を体験させる。
- (6)「B鑑賞」の題材については、国内外の児童生徒の作品、我が国を含むアジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館や博物館等と連携を図ったり、それらの施設や文化財などを積極的に活用したりする。
- (7) 創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、美術に関する知的財産権や肖像権などについて触れるようにする。また、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるように配慮する。
- 3 事故防止のため、器具の使い方指導と保管、活動場所における安全指導の徹底
- 4 鑑賞のための環境づくり配慮事項
- (1) 生徒が造形的な視点を豊かにもつことができるよう、生徒や学校の実態に応じて、学校図書館等における鑑賞用図書、映像資料等の活用を図る。
- (2) 生徒が鑑賞に親しむことができるよう、校内の適切な場所に鑑賞作品などを展示するとともに、学校や地域の実態に応じて、校外においても生徒作品などの展示の機会を設けるなどする。

美術科 2 学年 年間指導計画・評価計画

※評価の観点 知識・技能（知：知識 技：技能） 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

※評価規準

(1) 「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現「A表現」(1) ア(2)、〔共通事項〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・形、色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。 ・材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を深く見詰め感じ取ったこと、夢、想像や感情などの心の世界形などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 「目的や機能などを考えた表現「A表現」(1) イ(2)、〔共通事項〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。 ・材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練っている。 ・伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 ・使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。

(3) 「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」、〔共通事項〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメ 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

<p>ージや作風などを捉えることを理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 ・身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。 ・日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めている。 	
------------------------------	---	--

月	単元名 指導時数	ねらい・学習課題 学習活動	評価の観点				評価規準 (1)・(2)・(3) 評価の方法
			知	技	思	主	
4	透視図法 (10)	遠近法を学び、それを利用した絵画を描く。	●	●	●	●	(1)・(3) 授業観察 作品 ワークシート
5							
6	鑑賞 (2)	東洋・西洋美術史について学び、歴史的な展開や貴重な文化財について理解する。	●	●	●	●	(3) 授業観察 ワークシート
7	夏季課題						
8							
9	明かりがつくる空間 (10)	光の効果を考え、素材を生かして表現を工夫する。	●	●	●	●	(2)・(3) 授業観察 作品 ワークシート 作品
10							

11	変化するイメージ (3)	アニメーションの仕組みについて学び、テーマを決めて表現する。	●	●	●	●	(2)・(3) 授業観察 作品 ワークシート
	冬季課題						
1 2 3	ポスター・鑑賞 (10)	平和について関心をもち、情報伝達を学び、工夫して表現する。	●	●	●	●	(2)・(3) 授業観察 作品 ワークシート